

## 魂の作曲家・荒木栄

立命館大学大学院  
応用人間科学研究科  
対人援助学領域  
人間形成・臨床教育クラスター  
西 良倫

本論文は、労働歌で知られる作曲家・荒木栄（1924-1962）を取りあげ、その人生、彼のつくった歌の数々、彼の生きた時代、そしてその後の影響などについて、筆者の独自の調査にもとづいて論じてある。第1章では、筆者の大牟田での調査活動の成果をもとに、現在にまでおよぶ荒木栄の影響について述べた。

第2章では、まず荒木栄の生い立ちを述べた。彼が三池製作所（三井三池炭鉱）の機械組立工労働者であったことは、家族からの影響だけでなく、その曲づくりに大きく影響したと思われる。彼の父も兄も三池炭鉱の労働者であった。第2節では、歌の数々のなかから、とくに3曲「星よお前は」「三池の主婦の子守唄」「仲間のうた」を取りあげ、その歌の背景やエピソードを述べた。「三池の主婦の子守唄」。これは無償の愛の歌である。ここに荒木栄の歌に対する哲学を見ることができる。「三池の主婦の子守唄」の土台こそ三池闘争である。三池闘争を学ぶことで、荒木栄の歌のところがわかる。

第3章では、まず荒木栄の代表曲といえる「地底のうた」を取りあげ、詳細に分析した。この作品によって、荒木栄は、労働者階級の連帯性を描き、日本作曲史上に不滅の作曲を残したと言われる。さらにこの章では「大行進のうた」「がんばろう」「みんなニコニコ（三池の子供たちの歌）」といった作品も取りあげて論じた。その後、栄は、友人の勧めで日本共産党に入るが、それにいたる経緯や、「うたごえ運動」の先駆者としての荒木栄を論じた。

第4章では、荒木栄のあとを継いだ人たちをとりあげた。荒木栄を語る歌の仲間たちで、「M・Aコンビ」として多くの歌を作ってきた森田ヤエ子。栄とはうたごえの仲間として、東京の合唱団「うたごえ行動隊」の同志として交流した奈良恒子。栄について「私は、うたはこうしてうたうものだ」と教えられたのです」と回想する多泉和人。これら三人が語った荒木栄の人間像を取りあげた。また筆者自身と荒木栄の接点についてもふれ、最後に「荒木栄の人間観——栄の歌の哲学、芸術と人間形成への一考察」と題して、荒木栄の歌の底流にある「愛」について論じた。